

さんりく 明日へ

東日本大震災を乗り越えて、
前に進もうとする三陸の人たちからの
メッセージを届けます。



木村屋の創業は昭和元年(1926)。地域の
人たちが集まる席には、この店の「気仙ゆ
べし」や「雁月」がつきものだった。地元
の原材料を中心に、良い素材を使い、食べ
ると心が和む菓子を作りたい。それが変わら
ぬ姿勢だ。

御菓子司木村屋
岩手県陸前高田市高田町橋ヶ沢26-1
<http://okashitsukasa-kimuraya.com/>

木村昌之 さん

老舗菓子店の三代目

陸前高田市の「御菓子司木村屋」は、震災から約1年2カ月を経て、「おかし工房木村屋」として営業を再開した。新たなスタートにあたり、「年輪を積み重ねていこう」と、ビレネータイプのパウムクーヘンを商品化。「夢の樹パウム」と名付け、今では主力商品となっている。

震災直後は、店の再建を考えていなかったという代表の木村昌之さん。しかし、ボランティア活動をしていいたとき、「避難所に米や肉を届けると、ごく普通に『ありがとう』と受け取るが、お菓子を持っていたときには笑顔になって、『どんなお菓子なの』などと会話が生まれる」と気づいた。さらに、

「木村さんのお菓子が食べたい」という、たくさんの方の声にも背中を押された。

おいしいと喜ぶ人たちの顔を見て、自分が生まれて初めて生クリームを食べたときの感激を思い出した。木村さんは、「人が生きていくために、お菓子は必ずしも必要ではないかもしれませんが、でも、お菓子には、人を幸せにする力があると思います」と笑顔を見せる。

今は仮設店舗だが、いつか本店を再建したい。そのときは御菓子司木村屋の看板を復活させるつもりだ。そして伝統の郷土菓子も継承しながら、全国へ発信していきたいと考えている。

お菓子は人を幸せにする
だから作り続けたいのです

